

屋外タンク貯蔵所(屋外の20号タンクを含む)構造設備明細書 記載事項

- ① 「事業の概要」の欄は、屋外タンク貯蔵所を使用して行う事業の内容について具体的に記入すること。
- ② 「貯蔵する危険物の概要」の欄中、「引火点」の欄は、中仕切りタンクの場合、最も低い引火点を記入し、「貯蔵温度」欄は、加熱設備等常温以外の状態で貯蔵する場合には温度、常温で貯蔵する場合は常温と記入すること。
- ③ 「基礎、据付方法の概要」の欄は、例えば「鉄筋コンクリートの基礎の上にアスファルトサンドを敷設しアンカーボルトで固定し据付ける」等と記入すること。
- ④ 「形状」の欄は、形状及び屋根形状を「縦置円筒型(コーンルーフ)」「横置円筒型(中仕切り)」等と記入すること。
- ⑤ 「常圧・加圧の別」の欄は、該当するものに□をつけ、「加圧」の場合は、その圧力を記入すること。
- ⑥ 「寸法」の欄は、内径、高さ、側板高さ、胴長、鏡出等を記入すること。
- ⑦ 「容量」の欄は、「内容積○○○%、空間容積○○○% (○.○%)、容量○○○%」と記入すること。
- ⑧ 「材質、板厚」の欄は、縦置円筒型の場合、「底板○○mm S S 4 0 0、側板最下段○○mm S S 4 0 0、2段○○mm S S 4 0 0、最上段○○mm S S 4 0 0、屋根板○○mm S S 4 0 0等」と記入し、横置円筒型の場合は、胴板、鏡出について、角型の場合は、側板、底板、屋根板について材質、板厚を記入すること。
- ⑨ 「通気管」の欄中、「種別」は無弁通気管又は大気弁付通気管の別、「数」はタンクに設けられる数、「内径又は作動圧」は無弁通気管にあつては内径、大気弁付通気管にあつては内径及び作動圧をそれぞれ記入すること。
- ⑩ 「安全装置」の欄は、圧力タンクに該当するタンクについて記入するものとし、「種別」は危険物の規制に関する規則第19条第1項各号に掲げる種別、「数」はタンクに設けられる数、「作動圧」は「○○K Pa」等と記入すること。
- ⑪ 「液量表示装置」の欄は、例えば「フロート式液面計」等と記入すること。
- ⑫ 「引火防止装置」の欄は、「有」・「無」のいずれかに□をつけること。
- ⑬ 「不活性気体の封入設備」の欄は、設備等の概要を記入すること。
例：窒素ガスシール、増減圧時の警報設備を設置
- ⑭ 「タンク保温材の概要」の欄は、タンク外面に保温材が使用されている場合に、その材質、固定方法等を記入すること。
- ⑮ 「注入口の位置」の欄は、注入口の設置場所を記入すること。
例：No.○タンクの南西側○○mに注入口(注入口数○口)を設置
- ⑯ 「注入口付近の接地電極」の欄は「有」・「無」のいずれかに□をつけること。
- ⑰ 「防油堤」の欄中、「構造」は、例えば「鉄筋コンクリート造(高さ○○mm、厚さ○mm)」等と、「容量」は「○○○%」と、「排水設備」は、例えば「集水柵○基を防油堤内に設け、これより金属管による排水。堤外吐出口付近に開閉弁を設置」等とそれぞれ記入すること。
- ⑱ 「ポンプ設備の概要」の欄は、ポンプ種類、基数、防爆設備、ポンプ室の場合は建物構造等を記入すること。
例：ギヤーポンプ○基、モーター○kW基(受入)モーター○kW基(払出)
- ⑲ 「避雷設備」の欄は、JISA4201によるとともに、その概要を記入すること。
- ⑳ 「配管」の欄は、材質、口径、接続方法、防錆・防食方法を記入すること。
- ㉑ 「消火設備」の欄は、該当設備を記入すること。
- ㉒ 「タンクの加熱設備」の欄は、タンクに設置する加熱設備の概要及び加熱媒体を、例えば、「S G P 4 0 A スチールコイル」等を記入すること。
- ㉓ 「工事請負者住所氏名」の欄は、工事を請け負う法人の名称及び住所並びに工事責任者の氏名、電話番号

号を記入すること。